

学校教育目標・めざす子どものすがた

「未来への扉を開く心豊かな遠敷の子」

- 学び合うことが大好きな子
 - なかまとともに困難にねばり強く挑戦する子
 - 朝から元気に、進んで身体を動かす子
- 夢と目標を持ち

<学校経営の基本方針>

統合までの2年間、学校・保護者・地域が協働する「チーム遠敷」による学校経営により、「ふるさと遠敷と母校への誇り、新たな学校、自分の未来を創造していく力と気概、地域とつながり、ふるさとに貢献しようとする志」のある子どもの育成を目指します。

(1) 子どものために学校はある。

学校は子どものためにあります。常に子どもを起点におき、遠敷の子どもの活力、パワーが生かすよう子どもが主体的に活動を保証し推進する学校づくりを行います。特に大切にしたいのは、困り感を持ち、支援を必要としている児童です。学校教育全体のユニバーサルデザイン化を進めます。そして、どの子も安心して自分の持っている力を発揮でき、笑顔で生活できる学校をめざします。

(2) 教職員の使命感を基盤として学校がある。

子どもたち一人一人の現在と将来に責任を持って教育活動を進めることが私たちの使命です。この使命感を基盤に、教職員個々の多面的で柔軟な発想と協働によって教育活動の充実を図ります。また、「教職員は子どもにとって最大の教育環境である」との自覚を持って、はつらつとして子どもたちの前に立ちたいと考えています。

(3) 保護者や地域の方の理解と協力に支えられて学校がある。

目指す子どもの姿を地域・家庭と共有し実現していけるよう「チーム遠敷」として教育活動を展開していきます。

<重点目標>

- 「人の生き方にふれる」「自分の生き方を考える」学習を充実させます。
- 研究主題「自分の思いや考えを持ち、適切な言葉で伝え合う子どもの育成～体験活動と言語活動の往復を図りながら～」のもと、教材研究を充実させ、思いや考えを人と伝え合いたくなる、学び合う喜びのある授業づくりを目指します。
- 児童が主体となって取り組む特別活動を重視し工夫します。
- 遊びの中で進んで体を動かす活動の充実を図ります。
- 学校・保護者・地域が協働する教育活動の前進を図ります。

こんなことに取り組みます

1 人の生き方にふれ、人の生き方から学び、自分の生き方を考える学習活動の充実

<具体的方策>

- 地域のゲストティーチャーを招いたキャリア教育講演会、人権教育講演会を毎月交互に開催するとともに、事前事後の学習や関連活動の充実を図ります。
- 総合的な学習の時間を「人との関わり」を重視して実施します。
- 人の生き方を学ぶ読書活動を推進します。
- 「いじめ」「差別」などを題材にした児童が深く考える人権の授業を実施します。

<数値目標>

- 夢や目標を持っている児童90%以上
- キャリア講演会や人権講演会、人権の授業、読書などに関連して生き方や人権について自分の考えを書く活動 学期に3回以上

2 教材研究を充実させ、思いや考えを人と伝え合いたくなる、学び合う喜びのある授業づくりを目指します。

<具体的方策>

- 教材研究を充実させる中で、全員1回の研究授業を実施し授業力をより高めます。
- 「はたけじ」の活用を工夫するなどして、教科横断的な学習活動を展開します。
- 特別支援教育の知見を積極的に取り入れて学習環境のユニバーサルデザイン化を継続します。
- 3サイクルシステムの継続による家庭学習の習慣化を図ります。
- 読み聞かせを高学年まで拡大し、読書活動の充実を図ります。

<数値目標>

- 伝え合いのある学習、活動が好きな児童90%以上
- 体験を通して学んだことを言葉に表現する力が高まったと答える児童90%以上
- SASA2017 で全教科県平均以上

3 児童が主体となって取り組む特別活動の充実

<具体的方策>

- 児童会組織の活性化を図り、児童が主体となって企画運営する学校行事や縦割り班活動を充実させます。専門委員会、学級からのボトムアップによる企画運営を進めます。
- 児童が主体となって生活目標と具体的実践方法を設定します。
- 低学年活動を充実させ3年生のリーダーシップを育成します。
- 児童の発達段階に応じた困難克服体験を工夫します。
- 基盤としての学級経営の充実を図り、「居場所づくり」「絆づくり」を進めます。

<数値目標>

- 自分がみんなの役に立っていると答える児童90%以上
- 学校は楽しく安心して過ごせると答える児童100%

4 遊びの中で進んで体を動かす活動の充実

<具体的方策>

- 「朝遊び」の活動が多様になるよう工夫し、運動量の充実に努めます。
- はだしの広場を有効活用して、はだしで遊ぶことによる健康な体づくりを進めます。

<数値目標>

- 「朝遊び」で、体を動かし運動することが好きだと答える児童95%以上
- はだしの広場で遊ぶことが楽しいと答える児童80%以上
- 体力テストで県平均以上項目の増加

5 学校・保護者・地域が協働する教育活動の前進

<具体的方策>

- 「親子道徳」や「親子読書」等を活用し、親子で取り組む教育活動を推進します。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」の重要性を理解する情報提供や取り組みを積極的に行います。
- 月1回以上の家庭での食事づくりを進めます。
- 年5回のノーメディアウィークの取り組みを工夫し、メディア利用に係る「我が家のルール」作りを進めます。
- 「遠敷地区ふるさと祭り」や「はたけじ」整備等、地域と協働した学習活動を展開します。
- 学校の考えや取り組みがよくわかるように「学校だより」を毎月2回発行します。

<数値目標>

- 月1回以上の食事作りを実践する家庭80%
- 就寝・起床時刻やメディア利用に関するルールを作っている家庭80%以上
- 学校の考えや取り組みがよくわかると答える保護者90%以上